

宝塚市立長尾台小学校5年生の感想

◇私は、地しんはとってもこわいということをあらためて思いました。なぜなら、地しんそのもので亡くならなくても、ひなんじょなどで水や食事、トイレをがまんして亡くなった人もいるからです。今生きていることに、かんしゃをして、毎日を大切に生きたいです。

◇新聞ができるまでに、どれだけの時間がかかるか、どんなに大変かが分かった。記者の人の現場に行くという仕事に興味を持った。楽しそうだった。図書室にある新聞にも触れてみたい。

◇くわしい話をきき、阪神・淡路大しん災がとてもおそろしいことが分かった。ものすごい火やたてものがくずれたりして、6434人も亡くなったということをしっかり覚えておこうと思った。新聞記者さんはわすれられないようにいろんな人たちに教えていることが分かった。

◇新聞ができるまでは、社会科の授業で一通りやったけど、本当の記者に出会えて、そのことを聞いてよかったです。大阪、兵庫、東京に取材網があり、兵庫の地域ニュースに特化できるように、総局、支局がたくさんあるので、改めておどろきました。すべて記者が書いていることも知り、ネットニュースもそうしていると聞き、おどろきました。

◇地震が起きて、建物の2階がくずれて1階になったり、阪急などの電車が脱線したり、6434人が亡くなってしまったり、新聞社の本社の中がぐちゃぐちゃで、パソコンもこわれてしまった。命の危険があるのに被災者のために京都新聞で新聞を発行して、被災者の人達に役立つ情報、安全安心な情報など、はげます記事をとどけたい！という気持ち、とどけられたことが、大変だったと思うけれど、すごいと思いました。

◇新聞の細かいところなどが分かりました。兵庫県の新聞なので地域情報がたくさんあることは事前に知っていましたが、ここまで努力して地域のために新聞をつくってくれていたのはおどろきました。正確な情報を伝えるために、たくさんの人が新聞づくりに関わっている神戸新聞、たのもしいです。